

災害時対応マニュアル（学生向け）

◎ 地震発生時

1. 学内にいる時に地震が発生した場合

①地震発生から2分程度【自身の安全確保】

- ・屋内にいた場合は、あわてて外に飛び出さず、落下物や転倒物から身を守る（特に頭部）ため、机やテーブルの下に入るか、壁や柱の近くに身を寄せる。
- ・屋外にいた場合は、ガラス窓、落下物および転倒物から身を守る（特に頭部）。
- ・エレベーター内にいた場合、全ての階のボタンを押して停止した階で降りる。閉じ込められたら非常ボタンを押し救助を待つ。

②揺れがおさまったら

- ・火災の原因となりそうな電気器具等のプラグをコンセントから抜く。
- ・ドアや窓を開けたままにし、非常口を確保する。
- ・倒れそうなものや落下しそうなものは可能な範囲で応急措置を施す。
- ・火災を発見した場合は大声で周囲に知らせ、付近に火災報知機があれば押す。また、付近に消火器があれば自身が安全な範囲で初期消火を行う。ただし、炎が天井に達した場合は速やかに避難する。
- ・負傷者を発見した場合は、可能な限り救急措置を行い、必要に応じて応援を求める。
- ・教職員の指示もしくは自らの判断で避難場所（グラウンド）へ避難し、教職員の指示に従う。
- ・家族の安否が確認でき、自身の体調に問題がなければ、大学のボランティア活動に積極的に参加することが望ましい。

2. 学外にいる時に地震が発生した場合

①地震発生から2分程度【自身の安全確保】

上記のほかに

- ・自動車を運転中の場合は、減速して道路の左側に寄せてからエンジンを切る。
- ・公共交通機関に乗車中で、立っている場合は吊革や手すりにしっかりつかまる。座っている場合は足を踏ん張って上体を前かがみにして、持ち物等で頭部を保護する。

②揺れがおさまったら

- ・自動車の場合は、ラジオ等で情報を収集する。自動車を降りて避難する際は、自動車の連絡先メモを残し、キーは付けたまま車検証を持って避難する。
- ・公共交通機関の場合は、乗務員の指示に従う（線路外に高圧電流が流れている部分があるため勝手に車外に出ない）。

3. 安否報告（滋賀県で震度5弱以上の地震発生時）

※ログインID=本学メールアドレス

- ・自身の安否について「安否報告カード」を参照し、滋賀医大安否確認システム（SUMS_ANPIC）により報告する。

（使用不能の場合等は学生課 hqkagai@belle.shiga-med.ac.jp ヘメール）

◎ 火災発生時

1. 周囲に火災が発生したことを知らせる

- ①「火事」ということを大声で叫び、近くの人に早く知らせるようにする。
- ②非常ベルがあれば使用し、119番に通報する。

2. 初期消火にあたる

- ①身の安全を守るための脱出口を確保してから、バケツ、消火器、濡れた布などを使って消火に当たる。ただし、薬品火災については、消火器及び水を使用できないものがあるので注意する。
（火災は原則として天井に火が燃え移らないうちは消火可能です。）
- ②消火隊が到着した場合、火災の延焼状況を報告するとともに可能な範囲で消火活動に協力する。

3. 早く避難する

火が大きくなった時には無理な消火をしようとせず、次の要領で素早く避難する。

- ①タオルやハンカチで口を覆い、煙を吸わないようにできるだけ姿勢を低くして避難する。
- ②煙で前が見えない場合は、壁に手を当て方向を確認しながら避難する。
- ③避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉め、延焼をできるだけくい止める。
- ④一度避難したら再び戻らない。

◎ 災害時の連絡方法

1. 災害用伝言ダイヤル

- ①自分の情報を伝えたいとき = 伝言録音
 - ・171をダイヤルし、ガイダンスに従って「1」（暗証番号なし）をダイヤル
 - ・自宅等の固定電話番号を市外局番からダイヤルし、30秒以内でメッセージを録音
- ②相手の情報を聞きたいとき = 伝言再生
 - ・171をダイヤルし、ガイダンスに従って「2」（暗証番号なし）をダイヤル
 - ・相手の自宅等の固定電話番号を市外局番からダイヤルし、相手のメッセージを再生

2. ウェブによる情報登録検索

- ・インターネットや携帯電話の各キャリアで安否情報を登録検索できるサービスが提供されているので、事前に確認しておくことが望ましい。